

国 絵 図 ニ ュ ー ス

国絵図研究会（徳島例会）開催要項

徳島大会を平井松午先生のお世話で開催します。国絵図研究会の開催に先立ち、前日および第1日目の午前中に、希望者のみを対象に「歴史地理GIS講習会」を開催します。詳細は、下記案内を参照して下さい。国絵図研究会・徳島例会は、徳島地理学会との共催です。

【第1日目】 9月18日（月・休） 絵図展見学・研究会・懇親会

<交通 JAL1433便 東京発 10:15-徳島着 11:30-駅までリムジンバス 20~30分>

会場：徳島大学日亜会館（徳大新蔵地区／徳島駅から徒歩 20 分）

徳島駅より徳島バス「富岡・橋」行、徳島市営バス「津田」行、又は小松島市営バス各方面行に乗車し、「新蔵町」下車東へ徒歩約2分

13:30~15:00 日亜会館1階でギャラリー新蔵・特別展「阿波の国絵図と五街道」の見学（14:00より解説／平井松午）

15:10~16:00 羽山久男 氏（徳島地理学会）：阿波の絵図分析論

16:10~17:00 御厨義道 氏（香川県教育委員会）：

讃岐国関連の絵図について～香川県内伝来する絵図資料～

17:00～ 総会 国絵図研究会代表についてなど

18:00～ 懇親会（会場未定、参加費 5000～6000 円を予定）

※宿舎は各自でご予約願います。徳島駅前が便利です。

【第2日目】 9月19日（火） 国絵図・伊能図（原本）などの熟覧

会場：徳島大学附属図書館（徳大常三島キャンパス／徳島駅から徒歩 20 分）

徳島駅より徳島市営バス「循環バス（左回り）」・「島田石橋」行・「商業高校・中央卸売市場」行・「吉野川橋富吉団地」行に乗車し、「助任（すけとう）橋」下車東へ徒歩約5分、徳島駅より徳島市営バス「商業高校（旧道廻り）」行に乗車し、「助任橋」下車東へ徒歩約2分

9:30~12:00 附属図書館所蔵の淡路・阿波国絵図などの閲覧

12:00~13:00 昼休み

13:00~15:00 附属図書館所蔵の伊能図・実測分間絵図などの閲覧

<交通 JAL1630便 徳島発 16:30-東京着 17:40・JAL1900便 徳島発 19:00-東京 20:10>

歴史地理GIS講習会（オプション・希望者のみ）

9月17日（日）・18日（月・休）

会場：徳島大学総合科学部 GIS 共同利用室（常三島キャンパス／徳島駅から徒歩 20 分）

徳島市常三島町1丁目1番地 徳島駅よりのバスは同上参照

<交通 JAL1433便 東京発 10:15-徳島着 11:30-徳島大学前バス停までリムジンバス 20~30分>

17日 13:30~18:00 歴史地理GIS講習会Ⅰ（試してみようGIS基礎編）

19:00～ 懇親会（会場未定、参加費 3500～4000 円を予定）

18日 9:30~11:30 歴史地理GIS講習会Ⅱ（体験してみよう3次元絵図GIS）

□ 初心者向けGIS講習会。初日（17日）はGISのソフト・仕組み、シェープファイル（ポイント・ライン・ポリゴンデータ）の作成法・地図表示法、2日目（18日）は絵図3D体験などを予定。ソフトはArcGIS9.0。会場の都合により、定員12名（1人パソコン1台使用）とします（国絵図研究会参加者優先／申込順）。

●同封のはがきでお申し込み下さい。申し込み締め切りは8月30日必着です。

申込先：〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部地理学研究室平井松午
TEL.&FAX 088-656-7159 E-mail: hirai@ias.tokushima-u.ac.jp

○ 今年から発足した共同研究に、国絵図研究会のご支援を希望しています

このたび、杉本が代表となって申請した科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築—前近代地図データ集積・公開のために」が採択され、2006～9年度の4年間の共同研究をスタートさせることとなりました。本共同研究を行うにあたっては、国絵図研究会のメンバーの皆さんに、ぜひいろいろな面でご参加・ご協力を賜りたいと願っております。9月例会では、この点について、あらためて説明させていただけたら幸いです。

以下、簡単に本共同研究の紹介をさせていただきます。

○ この共同研究は、諸分野の専門家、諸職掌のノウハウをもった人々が集う、地図をめぐる、いわば^{インターフェイス}相互交渉の場でありたいと考えています

本共同研究は、19世紀以前に日本列島で作成された地図（手書図・印刷図）を主な対象にして、

- ① 地図の詳細な原本調査と、
 - ② 地図データの集積を行い、
 - ③ 歴史の中で地図あるいは地図を作製するという行為のもっていた意味を問い直していこうとするものです。
-
- ① ついては、内容・描写の特徴のみならず、材料（紙、色彩材料＝色料など）、表装、修復の痕跡、なども含め、詳細な原本調査を行い、モノとしての地図を問い直していきたいと考えています。
 - ② については、国絵図研究会『国絵図の世界』（柏書房、2005）や全国所在アンケートなどを基礎データとし、目録記述のための国際標準の動向も視野にいれつつ、研究に有用なデータ集積・公開のありかたを検討していくつもりです。将来的には、東京大学史料編纂所から発信できればと考えています。
 - ③ については、地図作成行為の復元実験や、認知論の議論も取り入れつつ、地図化された社会の特質を問い直していきたいと考えています。

本共同研究を、諸分野の専門家（歴史学、地理学、認知科学・言語論、書誌学、測量）、諸職掌のノウハウをもった人々（絵画模写、古文書修復、色彩材料検討）が集う、地図をめぐる、いわば^{インターフェイス}相互交渉の場と考え、議論や実験を展開させていきたいと思っています。

○ 9月の国絵図研究会にあわせ、実験としての、地図調査を予定しています。

9月17－19日の国絵図研究会にあわせ、20・21日、高知において、上記①の視点・方法による、実験的な地図調査の試みを行う予定です。参加希望者は同封はがきにて杉本までご連絡

下さいます(8月30日必着)。

概略の予定は下記の通りですが、ご参加の方には詳しい日程を科研事務局(担当千葉)より送ります。

(9月19日 徳島大学での絵図閲覧の後、夕方、徳島から高知へ移動(高速バス))

20日 高知県立紙産業センターで和紙関係見学
土佐山内家宝物資料館所蔵日本図など調査

21日 高知市民図書館所蔵国絵図調査

※ 今回の調査については、色彩材料の目視検証、紙の質の目調査による補修跡の検討などを検討中です。

※ 今後は、色彩材料についての光学的な非破壊検査の導入も検討しています。

国絵図という巨大手書絵図を対象としていること、共同で調査を行うことのメリットを生かすために、以下の手順で行いたいと考えています。

- 1 事前に全体写真を入手して、調査プランをたてる。
- 2 調査の途中に、参加者による所見報告・ディスカッションをはさみこみ、現場での発見の共有と、それに触発された新たな視角の獲得をめざす。
- 3 調査記録のありかたについて、検討・討論を行う。

<補足> 諸学の成果と本研究（科研応募書類より）

<日本史研究>

歴史学研究は、文字史料のみならず多様な史料を対象として、大きく展開し始めている。歴史的なテキストとして、絵画・地図、都市構造や集団行為・慣習行動などの分析が開始されている。『歴史をよむ』（鶴飼政志・蔵持重裕・杉本史子・宮瀧交二・若尾政希編、東京大学出版会、2004年）は、数十人の日本史および関連分野の研究者による多様な史料研究の成果を一書にまとめた。本研究は、このような状況をふまえ、さらに、いまだ完備されていない前近代地図の所在情報の集積も同時に行いつつ、学会共有の財産となりうるデータ蓄積をめざす。

世界の中で「日本」社会は、古代以来豊富な地図を作り出してきた。地図作成という行為はどのような特質を社会に付与したのか。黒田日出男、メアリ・エリザベス・ベリ、杉本史子編著『地図と絵図の政治文化史』（東京大学出版会、2001年）では、日・独・米の11人の日本史研究者による国際共同研究として、この点についての成果を世に問うたが、本研究では、具体的な地図群の共同研究を通じて、地図を歴史研究の対象として明確に位置づけ、分析の方法論を検討する。

<地図研究の広がり>

かつて地図史研究家によって担われていた地図研究は、こんにち『Imago Mundi』といったメジャーな学術雑誌を舞台として、地理学のみならず美術史、文学、哲学、社会学、文化人類学、大衆文化・視覚文化研究者といった、多様な諸学の検討対象となった。従来「自然を映す透明な鏡」としてのみ捉えられていた地図は、当該社会の価値観や見方を反映した独自の表現様式として検討の俎上に載せられているのである。本研究の成果は、これらの諸分野間交流に大きな基礎を与えるものである。

<アーカイブズ学研究的なかの目録記述・目録編成に関する研究>

インターネットの発達による情報流通のボーダレス化に伴い、知の全体をどのようにとらえ、その遺産をどのように次代に伝えていくか、世界標準の中で考える必要性が飛躍的に増大している。日本においてもICA（国際文書館評議会）によって策定された「国際標準 記録史料記述の一般原則：ISAD(G)」を適用した史料目録作成の試みが始まっている。本研究は、そのような動向を念頭におきながらも、目録記述・編成の方法論を、地図に視座を据え、問い直すものである。

<デジタル・アーカイブズの方向性>

現在、各史料所蔵機関において、地図をはじめとする視覚表現の画像公開が進んでいる。Web上でのデジタル・アーカイブズ公開は大きな可能性を持っている。しかし、一方で前近代地図のなかには、断簡化したものを近代以降無造作に復元した地図も多く、現形態が元の形状とは異なっているものも少なくない。本研究では、原本の詳細な検討うえでの書誌データと、画像を、車の両輪と捉え、学術的検討に耐え得る画像公開の方向性を探る。

<認知科学研究との接合>

人が社会の中で何かを認知し、表現し、他者と共同して何事かを行う時、その活動を助ける道具＝人工物が不可欠である。認知科学の第一人者D.A. ノーマンは、これを「認知的人工物」とよんでいる。

本研究では、地図を「認知的人工物」と捉える視点を視野にいれ、歴史研究との接合を試みる

【本の紹介】

●本会でも閲覧した臼杵市立図書館が所蔵する絵図資料の報告書が出版されました。以下、目次を掲載しておきます。

『臼杵市所蔵絵図資料群調査報告書』 臼杵市教育委員会 (A4 版 209 頁)

序・目次・口絵目録

調査報告編

第1章 調査の経緯と方法

第2章 資料群の概要

第3章 調査報告編

臼杵市立図書館所蔵の豊後国絵図 川村 博忠

諸国国絵図 上原 秀明

臼杵藩における絵図の製作と利用・管理に関する若干の考察 平井義人

臼杵藩天保地押絵図の表現内容とその作成過程 川名 禎 三河 雅弘

臼杵における地籍図類の作成経緯とその特色 三河 雅弘 川名 禎

第4章 平成14年度損傷調査報告

目録編

絵図資料目録

損傷絵図目録

関連資料目録

関連資料「城合戦国々目録」照合表(DVD デスク付)

●江田船山古墳の所在地で知られる熊本県菊水町から絵図・地図編が発刊されました。以下、目次を掲載しておきます。

菊水町史編集委員会編『菊水町史絵図・地図編』 菊水町 (A3 版 144 頁)

近世の絵図

菊池川全図

地租改正総図と皇国地誌村図

製糸工場図

衛星画像・地図・空中写真

立体視写真・諸地図

編集子より

●『国絵図の世界』を改めてみても、本当によくまとまったと感心しています。会員の皆様のご協力の賜物です。また、会員以外の方にもご協力いただきました。この場をかりて深く感謝申し上げます。柏書房にまだ若干残部があるようです。宣伝を宜しくお願いします。★梅雨があけたかと思えば猛暑です。九月になって涼しくなって徳島で皆様とお会いできればと願っています。▲下記のようにニュース編集担当(礒永)の所属と住所が変わりました。ご注意ください。福岡県の大牟田市から引っ越したわけではありません。下関のワンルームマンションとの往復生活です。■杉本史子先生の科研も楽しみです。絵図研究が独自の深化と広がりを見せていきそうな息吹を感じます。

ニュース編集担当・・礒永和貴 〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町2-1 東亜大学内
Tel 0832-57-5177(直通) isonaga@toua-u.ac.jp